

平成 19 年 10 月 21 日

淀川水系流域委員会 様

伊賀市青山羽根ダム対策委員会
委員長 藤 永 幹 夫

9 月 26 日の第 63 回淀川水系流域委員会に関して、平成 19 年 10 月 16 日付けで N P O 法人 伊賀・水と緑の会から貴委員会に提出された申し入れ書に関連して、改めて次のとおり意見を述べさせていただきます。

私たちは、川上ダム建設の話が持ち上がってから 40 年以上の時間を経て、今年 8 月に公表された淀川水系河川整備計画原案に川上ダム建設が明確に位置づけられているのを見て、これに賛同する立場から率直に自らの意見を述べるため、先般の淀川水系流域委員会に自らの思いで参加したものです。

万一、ダムが崩壊すれば 10 分後、私たちの在所は水のそこに沈んでしまうところ（伊賀市青山羽根）に私たちは住んでいます。そのために、過日アメリカでダムの崩壊が報道された時はダム建設絶対反対でした。

しかし激論の末、羽根地区の治水・下流の治水等のために青山羽根地区はダム建設に賛成し、先祖代々受け継いだ山林を手放しました。

私たちは、一日も早くダム建設にとりかかってほしいのです。

淀川水系流域委員会の委員の皆さんは、私たちの決断をしっかりと受け止めていただきたいと考えています。